

## 平成30年度第2回小鹿野町総合教育会議会議録

開催日時 平成31年1月23日(火) 午後4時  
開催場所 両神ふるさと総合会館 研修室A  
開会時刻 午後4時  
閉会時刻 午後5時40分

### 出欠席状況

町長	森 真 太 郎	出席
教育長	笠 原 浩	出席
教育委員	齊 藤 榮 一	出席
	宮 原 正 博	出席
	朝比奈 玲 子	出席
	小 池 恭 一	出席

### その他会議に出席した者

社会教育課長	黒 沢 義 則
学校教育課長	磯 田 定 志
総務課長	高 橋 俊 行
総務課副主幹	須 藤 和 浩
社会教育課主任	肥 沼 隆 弘

聴者 なし

会議録署名 笠 原 浩

### 日程

日程第1 会議録署名委員の指名  
日程第2 議 事  
(1) 文化財の保存と活用について  
(2) 小学校統合について  
(3) その他

### 会議の進行状況及び顛末

開会 午後4時3分

町長 あいさつ後、全員の出席を確認し、平成30年度第2回小鹿野町総合教育会議の開会を宣言する。

町長 まず、日程第1 会議録署名委員の指名を行います。  
会議録署名委員の指名については、笠原浩教育長を指名いたしま

す。よろしくお願い申し上げます。

「はいの声あり」

町 長

次に日程第2 議事に入ります。

初めに(1) 文化財の保存と活用についてを議題とします。

社会教育課長より説明をお願いいたします。

社会教育課長

小鹿野町には140件の指定文化財があります。郷土芸能祭やふるさとまつり等で郷土芸能や伝統芸能が上演されるなど積極的な活動をしています。特に小鹿野歌舞伎は全国的に活動しております。また、昨年7月に小鹿野町こども歌舞伎がロシア公演を行いました。平成28年3月にはようばけ、犬木の不整合、パレオパラドキシアが国の天然記念物に指定されました。現在保存計画の策定を計画しており早ければ来年度にはその計画に基づいての活用がされます。また、昭和46年以降平成25年3月まで3496件を含む1万点を超える民族資料が総合センター、旧倉尾小学校、ふるさと館、みどりのむらに展示してあります。来年度は旧倉尾小学校にある文化財を旧両神中学校に移し町の歴史・文化の展示を考えています。歌舞伎に関する常設展示場を文化センター2階に建設し文化的な分野での展示をしていきたいと考えています。

お配りした資料は、文化財の修繕、保存状態をまとめたものです。資料は古いですがガイドマップをお配りしました。

肥 沼

小鹿野町の文化財について説明いたします。国指定文化財、埼玉県指定文化財、小鹿野町指定文化財に分かれています。

埼玉県指定文化財9番の新原笠鉦は今年度県の補助事業で修理を行っています。次に町指定の文化財の飯田屋台は文化庁の補助金を活用して修理を行っています。平成27年度から今年度まで行っています。飯田屋台のように長期間かかるものは現在まで2000万円以上の補助金が支払われています。文化財を管理している団体としても費用の負担が難しくなっています。国指定文化財5番の木造十二神将立像統14軀は現在県に整備計画を提出して来年度からの事業となります。事業費1600万円は、地元が1/4を負担してもらいます。

町の指定については町が50%、地元が50%の負担することになります。費用負担が難しい状況になっています。その時の判断で町の負担も考えていかなければならない。

早急に修理の必要ある事例では、町指定の75番の羽黒神社の舞殿はかなりひっ迫した状況になっています。藁ぶき屋根が平成3年からかなり頻繁に修理しているが来年あたりで優先的に修理が必要であり、事業費として1000万円を超えており地元も600万円を負担しています。

教育長

小鹿野町では20数件の修理の必要な文化財があり、600万円以上の地元の負担もしており、町でも負担してほしいという依頼がはいつています。この資料で赤で示したものの地元の状況・保存の

状況・修理にあたってどの程度の予算か、そういったものを踏まえて文化財は保存すべきである、ということから何らかの方策を考えていかなければいけない。ただ、行政が持てばいいというものでもない。地元が厳しくなったからと言って行政が負担すると地域の文化を失わせることになる。

基本的には町がある程度負担をすべきだろうと思っています。今一律1/2となっている負担割合を地元に合わせて何かできないか、費用がどのくらいか、大きな額に対して少額の地元の負担、少額であるけれど負担が多い、そういう状況を勘案して少しでもバランスの取れた補助ができることが良い。それには町だけで一方的にはできない、地元の人と協議しながら新たな補助のしかたを検討していくことが必要です。自分たちが守っていくという意識がなくなるのは地域の文化が消えることになる。

町長 しっかり後世に残していく必要があると思います。それには地元の方には努力も必要かなと思います。

少子化の中で世帯も減少して厳しいが、バランスを勘案しながらかさ上げしていきたい。羽黒神社も10数軒で維持するのは大変だなと思います。

来年度予定している薬師堂は17軒、そのうち県がはいますけど非常に多くの負担があります。かさ上げの必要のあると思います。

教育長 関係者の意識を保ちながら町全体で文化財を守ることを考えていかなければならないだろう、町民の理解が必要になってきます。

町長 財源の確保に基金が設けられるといいか、余裕がないのかも知れないが。

総務課長 クラウドファンディングの話をさせてもらいますが、町ではふるさと納税で基金を集めています。毎年度200万円くらい基金に積み立てています。

使い道は5つの分野がありそれを選んでいただいております、財源としてそれを活用できるよう選んでもらいふるさと納税を募るのも1つの方法かと思っています。

地元負担の在り方ですが、今までは1/2の1/2、残った1/4を負担していましたが、まず集められるだけ集めてもらう、足りない部分を町が補助する方法も1つの考えかたかなと思います。

町長 ふるさと納税の基金は色分けしているんですか

総務課長 申込の時にどこに活用するか印をつけています。

町長 教育はどれくらいですか。  
基金は使っているんですか。

総務課長 ある程度100万、200万の単位になると充当しています。道路や教育に使っています。

教育長 以前一中にいたとき、使い古しの年賀はがきを集めたことがありましたが、なかなか集まらない。集まったものをどういう風に使われているのか、それを子供たちに説明したら一中全部で集めたよりも私のクラスが圧倒的に多かった。こういう風を集めて使うんだということが理解できればむきになってやってくれる。

総務課長 今までが返礼品目当てにやっていて、総務省の指摘がある。教育長が言うように目的を明確化したふるさと納税のあり方を来年度検討していきたい。

肥 沼 町民で文化財がそんなにあるのかというのを知らない方が多いと思いますので、町全体で守っていくので地元にも相談していただいています。薬師堂もそういう動きをしており、補助金の他に民間のいきいき財団というのに申請を出しています。

町 長 今地元の努力という話が出たが、萩平歌舞伎に携わり、歌舞伎を応援して浄財を基金に積み立てている舞台の保存会があり、我々も協力した。  
羽黒神社も歌舞伎もできるので、保存会にも協力してもらって浄財を集めて財源にして使う、ピーアールにもなるのでそういうこともできるかなと思う。

須 藤 基金の残高について報告します。  
生活環境の整備 2268千円、健康と福祉 4865千円、ふるさとのおすを担う人づくり 1711千円、活気あふれる産業 1638千円、子育て支援 2178千円 合計12660千円です。

総務課長 いろいろな基金の集め方があると思いますが、町の要綱の改正も必要になってくると思います。

齊 藤 町づくりには文化財は必要だと思います、都会の人は新しいものでできるけれど田舎でやっていくには伝統のある者とか恵まれた系統を利用するとか歴史文化を利用しないと対抗できない。文化財をどういう保護していくのかを考えたほうが良いと思う。基金とかふるさと納税を使うとか、文化財でも昔の神社仏閣は基金を集めるために御開帳をした、基金を集めるために英知を結集して基金を財として文化財を保護してきた。

教育長 こんなに文化財を持っている町はない、文化財を守ろうとしている姿勢をアピールできると思う。

齊 藤 5年前に八幡様の地元の寄附を2倍にした、黒字にするために2倍にしたが、そのまま赤字だった。だから自分たちの努力も必要です。

朝比奈

小鹿野町たくさん文化財があって、こんなに素晴らしい歴史と伝統はよその町にはない、地域だけでなく行政も力を注いでいる結果だと思えます。地域も行政に丸投げしたのでは地域の文化も発展にはならない、地域の文化も変わってしまう。

地域は地域の努力を最大限に見せていただいて町は最大限の力を注いで力を合わせていく。小鹿野をアピールする上で寄附をくださいという形がいいのではないか。何か形があるのなら、この事業を行いましたとかふるさと納税をつかって 町がこういうものに使いましたという報告があってもよいか。その都度やっていく努力も必用かなと思えます。

町 長

ふるさと納税でこういう事業をやりましたという報告はないんですか

総務課長

やっていません。納税がいくらだったか、何に使ったか今年度中に出せればよいと思えます。年間200万円なので5で割ると40万円くらいなので、なかなか充当する形にならない。こういうものに使いましたという報告をしたい。

町 長

次に(2) 小学校の統合についてを議題とします。

学校教育課長

小学校の現状について来年度の取組みも含めて町内出生年度別児童数について説明いたします。各学校別にまとめてあります。平成20年が小鹿野小60名、長若小13名、三田川小14名、両神小17名、合計104名です。平成30年では1月1日現在の人数で小鹿野小18名、長若小3名、三田川小4名、両神小1名、合計26名です。これに4月1日までの出生数を調べまして、小鹿野小27名、長若小3名、三田川小4名、両神小3名、合計37名です。10年間で半数以下になってしまうことがこの表でおわかりいただけるかと思えます。

各学校のクラス数をあらわしたものがこの表です。平成30年度のクラス数が小鹿野小が12、長若小・両神小が6三田川小が5となります。

平成37年では4校を統合したとしても複数学級が確保できなくなります。小鹿野小も全学年が単学級になる、長若小・三田川小・両神小につきましては複式学級が2学級となります。

子供の減少が学校運営にも影響していることがおわかりいただけるかと思えます。

今まで議会でも説明しておりますが、教育委員会としては、積極的な情報提供と地域の意向確認ということでできるだけ情報提供し意向確認をまいります。今年度2月から5月までPTAの役員と学校評議員の方にこれらの資料で説明し、地域に対しても情報提供しました。

2番目ですが、地域の合意形成のもとにということで地域の方と意見交換して地域の合意形成にもとづいて学校統合も進めていきます。

そのうえで緊急性の高い学校から協議を進めていく、段階的な統

合を進めていくということで説明をしております。昨年度末から今年度に地域の方に説明をしましたが、意見が全くなくてこのままでは統合の話も地域の方から全くでない状況が続いてしまいますので、統合に限らず情報提供や意見交換ができればいいな考えております。

3番目に検討・協議の進め方ということで、平成31年度に教育懇談会を計画したいと考えております。保護者や学校評議員や教育委員さんに出席いただき意見交換会を実施したいと考えております。その中で統合の話が出れば情報提供や意見交換をしていきたいと考えております。懇談会が深まって地域によっては統合はどうかという意見が出てくるようであれば地域検討会を設置したいと考えております。教育委員会で設置するのではなく、学校単位で設置してそれに教育委員会が加わるという形で、あくまでも町が統合を進めていくということではなく地域が主体となって進めていくという形です。

日程が決まりましたら教育委員さんにもご協力をお願いしたいと思います。

町長 教育懇談会は最初は教育委員会だけでいいのかと思います。最終的には町長も必用かと思うが。

学校教育課長 地域に出向いて意見を聞いて、その結果を町長に報告しながら次のステップに進めたらいいなと思っています。率直な意見は出てこないとは思いますが、統合に限らず教育のあり方や教育行政などご意見がいただければその方が有意義のことかと思っていますのでそんな形で進めたいと思います。

総務課長 中学校統合の時、在校生の保護者より入学前の保護者の方が真剣に考えていました。保護者というのをどこまで含めるのかということも考えていくことかと思っています。高学年の保護者は現状でもいいかなということもありました。意見の差がありました。統合も新設なのか統合か最初に決めておく必要があると思います。

教育長 統合には対等や吸収というのはいないんです。大きい方のやり方に小さい方が合わせるということはないんです。

総務課長 問題は手続きです。例えば卒業証書の番号を1番からにするとか。

教育長 小鹿野中学はなくなってないんです。だからそんなことは起こり得ないんです。中学校の時にそうなったから小学校も同じような展開になることが予想されます。とにかく子供たちが楽しい統合でなければだめです。32年度は三田川小が複式2学級になる、33年度は長若小が複式になる、今動く必要があります。一斉統合は避ける、段階統合が望ましい。中学の一斉統合が失敗だったと思うのは4校が一斉に統合して生徒・職員のすり合わせに時間がかかった。

町長 中学校の統合はうまくいっているから前に反対した議員さんも賛

成するのでないか、小学校も早くやった方がいいのではないかという人もいるのではないか。

教育長 地域と議会が同時に議論を始めた、議会の内容が影響をあたえていた。地域の意見を持って議会に諮る、そういうことでないといけない。地域の声を確認できないうちに動く必要はないです。小規模が充実し小規模の良さが生きてます。統合しない小規模の学校もあるんです。

町 長 教育懇談会は地区ごとにやるんですか

教育長 全地区です。全町的な中で地域の課題を調整できればいいと思っています。

宮 原 中学校は最後の砦ですから、これは説得力のある事業で数字が物語っている正しい情報を保護者に提供してもらって、正しい意見が出てくれば、声が大きくても違うんじゃないですかという意見が初期の段階で出てくる、学校教育課長にはあとあと変な意見が出ないよう最初の段階で説明してもらおうように丁寧にやっていただきたい。前回の小鹿野中学校の統合のノウハウが生きるかと思えます。

教育長 中学の小規模でいいことはあまりない、幼稚園は大勢で触れ合うことが大切、少人数で先生が面倒を見てやる環境は決して良くないんです。だからある程度の規模が必要です。小学校の小規模は良さが一番生きるのは低学年です。小規模のデメリットもあるが、メリットも大きいです。慌てないでじっくり進めることがいいと思います。

町 長 その他の項で何かありますか

肥 沼 10月22日から12月2日まで大宮公園で歴史と民族の博物館でダムと変わる私たちの暮らしというのが開催されていました。その展示物であった合角ダム水没地域総合調査の資料として県に貸してあった民族資料が返ってきましたので1月26日から2月11日まで小鹿野総合センターでダムに沈んだ自然と文化展を開催します。2月2日には講演会も開催します。

学校教育課長 統合型校務支援システムにより教職員の校務の負担、名簿の管理などを軽減しようという動きがあり、小鹿野町では町村会に共同開発してもらって事業費軽減をしています。30年12月に検討部会が組織化されました。31年1月に検討部会が開催され31年度中には構築費用の確定となります。32年度に予算化して構築を開始となります。

以上で教育総合会議を終了

閉会 午後5時40分

上記会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成31年 3 月 29 日

教育長 笠原 浩